

平成30年1月 定例教育委員会

日 時 平成30年1月25日（木）

9時30分～

場 所 西地区公民館 第4講座室

出席者

（教育委員）

西本教育長 久田委員 深町委員 内海委員

（事務局）

池田教育次長 中原教育次長兼学校教育課長 友永総合教育センター長兼総合教育センター課長 小田副理事兼社会教育課長 吉田総務課長 吉富学校保健課長 前川図書館長 白濱教育センター長 森崎青少年教育センター所長 吉住公民館政策課長 鶴田スポーツ振興課長 松尾総務課長補佐 伊藤学校教育課副主幹 大石学校教育課副主幹 大東学校教育課副主幹

欠席者

合田委員

傍聴者 11名

内 容

(1)教育長報告

(2)平成29年11月分議事録の確認

(3)議 題

- ① 義務教育学校設置に伴う規則、規程の一部改正の件
- ② 「佐世保市公立幼稚園教員等として資質の向上に関する指標」の件

(4)協議事項

なし

(5)報告事項

- ① 平成29年12月定例会一般質問答弁について
- ② 平成30年成人式典終了報告について
- ③ 第68回小柳賞佐世保シティロードレース大会実績報告について
- ④ 教育講演会「ダニエル・カール氏」の開催について
- ⑤ 「サイエンス広場で遊ぼう！」の開催について
- ⑥ 世知原地区公民館及び相浦地区公民館の休館について
- ⑦ 佐世保市郷土研究所公開発表会の開催について
- ⑧ 平成29年度 チャレンジ！読み語り初級講座の開催について
- ⑨ 図書館で開催される各種イベントについて

(6) その他

- ① 「学力の向上」について
- ② 次回開催予定

◆ 教育長報告

- 12月26日 12月定例教育委員会
- 12月28日 聖和女子学院高校バレー部市長表敬
仕事納め式
- 1月 4日 仕事始め式
- 1月 5日 小・中学校定例校長研修会
- 1月 7日 成人式
小柳賞ロードレース大会
- 1月 9日 長崎県立大学山崎教授市長面談
- 1月16日 連合町内連絡協議会・婦人部合同新年会
- 1月17日 1月前期教育委員会
イングリッシュキャンプ視察（清水中学校）
- 1月19日 教育センター合同懇親会
- 1月21日 第24回佐世保市長杯弓道大会
- 1月22日 清水中学校 中島由優樹くん市長表敬
- 1月23日 文化財審査委員会
通学区域審議会
- 1月24日 長崎県選抜作家美術展佐世保展開場式
光海中学校英語教育研修会

【西本教育長】

皆さん、おはようございます。今日は1月の定例教育委員会ということで、通常ですと市役所の11階の教育委員会の執務室でやるんですけども、昨年的一般質問で、たまには教育委員会の外で、地元の方に聞いてもらわないかというご意見がありました。ごもっともなご意見でございましたので、機会を捉えて、外で教育委員会をさせていただきたいと思っておりましたら、今日、この西地区公民館で開催できるということで大変うれしく思っております。

私の報告といたしましては、まずお礼を申し上げたいと思います。せっかく地区自治協議会の関係で地元の館長さんもお見えでございます。昨年の12月14日、21日と、この部屋で金比良小学校、光海中学校の児童生徒を、希望者でしたが集まっていただきまして、放課後に勉強会をするということで、「地域未来塾」という銘を打ちまして、地元の方々のご協力のもと、そして教育会のサポートのもとで子供たちに家庭学習の習慣をつけていただくという意味で開催をさせていただきました。

小学生が45名、中学生が14名、どの児童生徒も目をらんらんと輝かせて、しっかりと勉強をしていくさまを見ることができました。また、サポートしていただいている地元の方々、あるいは教育会の先生方、ほんとうに生き生きとして教えていただいている姿を見て、ほんとうにいい試みだったなと思っております。

この間、地元の方々にはいろいろとご苦労があったということで、ほんとうに高いところからではございますけれども、御礼を申し上げたいと思います。どうもありがとう

ございます。

それから、今日は合田委員さんが欠席でございますが、インフルエンザでございます。ほんとうに今、猛威を振るっておりまして、1月16日から25日までの間に学校で10校、それから13学級が学級閉鎖になっております。今現在、白南風小学校で2学級、日宇小学校で1学級という状態です。ほんとうに気をつけていただきたいと思いますっております。

それから、うれしいニュースとしては、清水中学校の1年生の中島由優樹君が歌会始の歌を選ばれまして、12日、宮中のほうにお招きをいただいたところです。一昨日、市役所のほうに表敬に来られて、これからも頑張っていきたいと、天皇陛下からお言葉をいただいたということで、何を言ったかよく覚えとらんということでしたが、非常に感激をして、オーラを感じてきましたというふうなことでした。ほんとうにうれしい限りです。

それから、清水中学校のイングリッシュキャンプも実施させていただきました。これも子供たちの英語力の向上ということで、今、教育委員会として取り組んでいるところです。

それでは早速ですけれども、始めさせていただきます。

まず、昨年、平成29年11月に実施いたしました教育委員会の議事録の確認をさせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

【松尾総務課長補佐】

委員の皆さんには事前にお渡しをして、確認をいただいております。ご了承いただければ、ホームページのほうで公開したいと思えます。

【西本教育長】

今、事務局のほうから議事録確認の話がありました。これでよろしゅうございますか。

【全委員】

はい。

【西本教育長】

それでは、11月の委員会の議事録についてはそのように決したいと思います。

次に、議題に入ります。議題は2件でございます。

①義務教育学校設置に伴う規則、規程の一部改正の件でございます。事務局から説明を求めます。

総務課長。

【吉田総務課長】

それでは、議題1に基づきましてご説明申し上げたいと思えます。

提案理由のところに、平成３０年４月から黒島小学校及び黒島中学校、浅子小学校及び浅子中学校をそれぞれ義務教育学校とする条例改正を行った旨の記載をしております。改めて申し上げますが、平成２８年に新たな学校の種別といたしまして、従来の小学校、中学校に加えまして、９年間を一つの学校として運営する義務教育学校が創設されました。

これに基づきまして、提案内容の（１）に書いております８本の規則に加えまして、Ａ３判をお開きいただきたいと思うんですが、今申し上げたとおり、小学校、中学校はあくまで廃止になりまして、義務教育学校という新たな法人になるということもございまして、各種の例規の改正が必要となっております。トータル１１本の規則改正が必要になってまいります。そのうちのナンバー９からナンバー１１までの３本については、右側、ちょっと小さい字ですが、それぞれ１１月もしくは１２月の定例教育委員会で既にご承認いただいているところでございます。本日はこの１番から８番までの規則、規程等の改正を行うものでございます。

資料にお戻りいただいて、２ページ目をお開きください。

２ページの（２）に書いておりますとおり、先ほど申し上げた１番から８番まで全て、題名もしくは条文中に校種の中に義務教育学校を加えるという改正でございます。

なお、特殊な例といたしましては、（３）、Ａ３判でいきますとナンバー１になりますが、各学校には学校印と学校長印がございまして、こちらにつきまして、黒島小学校・黒島中学校、浅子小学校・浅子中学校の校印を廃止し、義務教育学校印及び義務教育学校長印を新たにつくる、つけ加えるというものでございます。

また、（４）でございしますが、これは通学区域規則、Ａ３判でいきますとナンバー６になりますが、こちらでも小学校、中学校からそれぞれ学校名を削除し、義務教育学校として現在の通学区域を加えるという改正を行っているものでございます。

簡単な説明でございしますが、私からの説明は以上でございまして。

【西本教育長】

義務教育学校の設立に伴って、関係する規則、規程の改正についての説明がありました。委員の皆様から何かご質疑等ございますでしょうか。

【全委員】

ありません。

【西本教育長】

それでは、今出されております規則、規程の一部改正の件、異議がないということでよろしゅうございますか。

【全委員】

はい。

【西本教育長】

2 番目の議題です。「佐世保市公立幼稚園教員等としての資質向上に関する指標」の件ということでございます。事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長。

【中原教育次長兼学校教育課長】

続いて、議題 2 をお願いいたします。1 ページに上げておりますが、議題は、「佐世保市公立幼稚園教員等としての資質向上に関する指標」の件でございます。1 2 月の定例教育委員会において、協議事項ということで上げて、ご意見いただきましてありがとうございました。今回、新たに議題として上げさせていただくものでございます。

提案理由としては、平成 2 9 年 4 月 1 日施行の教育公務員特例法の一部改正により、公立幼稚園の園長及び教員としての資質向上に関する指標を定めるものでございます。この教育公務員特例法によりまして、任命権者がこの指標を定めるということになっておりまして、公立の幼稚園は任命権者が佐世保市教育委員会でございますので、今回指標をつくらせていただきました。

これにつきましては、公立の幼稚園長、それから幼稚園の先生を養成いたします長崎短大の先生にもご意見をいただきながらつくりました。前回ご指摘をいただいた分で変更をしたところが、A 3 判の 2 ページの右側の一番下です。特別支援教育に関する分ですけれども、前は「幼児及び小学校の通級指導教室との連携」とだけ、通級指導教室の部分だけを書いておりましたので、今回は「幼児通級指導教室及び小学校特別支援学級・通級指導教室等との連携」と書いております。具体的には、通級指導教室や特別支援学級との連携が必要になってくると思うんですが、「等」という文言を入れさせていただいたのは、例えば発達センターでありますとか、特別支援教育にかかわって関係機関との連携も出てくるだろうと思ひまして、「等」という文言を入れております。

以上でございます。

【西本教育長】

ただいま園長と先生の資質向上に関する指標についての説明がございましたが、委員の皆さんからご質疑等ございませんでしょうか。これにつきまして、前回の教育委員会の中で一定議論はいただいたところでございますので、その部分について修正があったものを今回訂正して提出されているということでございます。

よろしゅうございますか。

【全委員】

はい。

【西本教育長】

それでは、お諮りいたしますが、「佐世保市公立幼稚園教員等としての資質向上に関する指標」の件については、ご異議がないということでよろしゅうございますでしょうか。

【全委員】

はい。

【西本教育長】

これを決しました。

それでは、ちょっとお諮りをいたします。式次第によりますと、この後、報告事項ということになってございますが、教育委員会といたしましては、議論の進め方について、（６）のその他の部分で、学力向上というものがございます。せっかく傍聴の方もお見えでございますので、順番を入れかえまして、報告事項を最後にし、その他の学力向上についての議論を先にやらせていただきたいと思いますと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

【全委員】

はい。

【西本教育長】

それでは、その他の学力向上についての議論に移りたいと思います。その他については資料をお配りしております。当日配付資料の中のその他①でございます。佐世保市の小中学校の学力についての考察を含めてご議論いただきたいと思います。内容について、まず当局から説明をお願いいたします。

学校教育課長。

【中原教育次長兼学校教育課長】

それでは、学力の向上について、お手元の資料をもとに説明をさせていただきます。

まず、一つ目の学力というのは、いろいろな捉え方があるんですが、文部科学省の資料によりますと、確かな学力ということで、基礎・基本を確実に身につけ、みずから課題を見つけ、みずから学び、みずから考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力と定義されております。

学力の重要な三つの要素といたしまして、一つ目の基礎的な知識・技能、二つ目の知識・技能を活用し、みずから考え判断し表現する力、三つ目の学習に取り組む意欲となっております。このうち、一つ目と二つ目のものをはかるということで、全国学力学習状況調査が実施されております。その現状をもとに説明いたします。

２番目の（１）調査内容が、①教科に関する調査、いわゆる学力調査、それから②が生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査となっております。

（２）調査の結果に本市のものを載せております。アが小学校でございますが、ごら

んのとおり長崎県は全国に比べてやや劣るというふうなことでありまして、イの中学校ですけれども、小学校よりももっと開きが大きくなっているという現状でございますので、この学力向上というのは喫緊の課題であると捉え、今、努力をしているところでございます。

②に質問紙調査を上げております。アに学校関係を上げておりますけれども、ごらんのとおりですが、二つ目の「授業で目標が示されたか」、三つ目の「授業で学習を振り返る活動をよく行っているか」、この辺を中心に今年度は学校のほうへの指導等をしているところでございます。

続いて2ページになりますが、家庭や地域の関係ということで、上から三つが家で学校の宿題をしているか、予習復習をしているかという現状で、ごらんのとおりでございます。それから、四つ目ですけれども、平日に授業以外で1時間以上勉強しているかというのも、小学校は若干いいんですが、中学校では全国との開きが大きいということで、放課後の学習支援という形でも、ここ西地区公民館で地域未来塾を実施していただいておりますが、こういった放課後の学習支援も必要だろうと考えております。次に、読書の時間でありまして、メールやネットをしている時間、地域行事の参加、そういったものも参考までに載せております。

3番目に、学力向上に関する主な方策でございますが、一つ目が組織的な取り組みを現在推進しているところです。大きくは二つありまして、教育長、教育委員にも入っていただいた学力向上本部、それから現場の先生方も入っていただいた学力向上推進委員会、この組織をしっかりと機能させていきたいと思っております。

二つ目の教職員の資質・能力の向上でございますが、学校教育課に4人、学力向上専任指導員を配置していただきました。この専任指導員が学校に行きまして、模擬授業を実施したり、校内研修で指導助言をしたり、そうする中で土台となるような、そういったものをしっかりと定着させてまいりたいと思います。

それから、教育センターにおきましては授業改善研修で実践協力員制度というものを実施しまして、若手教員の資質・能力の向上やミドルリーダーの育成に努めているところでございます。

3番目の学校への人的支援ということで、小人数指導の非常勤講師が26名おりますが、これを小中学校26校に配置しております。それから、特別支援教育補助指導員が47名おりますが、こちらを小中学校56校に配置をいたしております。外国語指導助手、いわゆるALTと呼ばれます者が13名、国際理解指導員が18名おりますが、こちらのどちらかを全ての小中学校に配置をいたしております。そういった人的支援も続けてまいりたいと思います。

4番目の教育の情報化の推進でございますが、ICT機器のタブレットや電子黒板等が順次各学校に配備されます。それにあわせてICT支援員も順次導入してまいりたいと思っております。

5番目に読書活動の推進でございますが、学校図書管理システムということで、パソコンで検索すればすぐ本が借りられるというシステムを導入いたしております。それか

ら、学校司書の20名を小中学校69校へ配置をしております。また図書ボランティアの方がだんだん広がっております。このボランティアの方の活用も図りながら読書活動を推進したいと思いますし、市立図書館におきましてもさまざまな読書活動の推進がなされているところでございます。

続いて6番目の家庭教育支援でございますが、子育て講座、家庭教育講座、家庭教育学級等を開催しております、PTA研修会も実施されております。それから、メディア関係ですけれども、メディア安全指導員さんがおられますので、そちらについても活用促進を図ってまいりたいと思っております。

7番目が放課後の活動支援でございますが、放課後子ども教室に加えまして、冒頭、教育長からもありましたが、西地区公民館におきまして地域未来塾を実施させていただいております。先ほど言いました放課後の学習支援にも努めてまいりたいと思っております。

簡単でございますが、説明は以上でございます。

【西本教育長】

今、本市の学力向上について、さまざまな取り組みがなされておりますけれども、この学力向上については、調査の結果を見ていただくと、やはり長崎県は全国に比べて劣っている部分があるということも踏まえて、佐世保市の教育委員会としては、この向上については喫緊の課題と捉えております。今日は、まず委員のほうから、今後のこと、これまでのことも含めてご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

久田委員。

【久田委員】

これまでも事あるごとに学力のことについては具体的な説明をいただいているんですが、今回の場合は細かに数値で示されているので一定理解をしました。佐世保市内の子どもたちの現状を見ると、私自身も学力向上本部の一員として、あるいは教育行政にかかわる者の一人として、やっぱり厳粛に私自身が受けとめんといかんのかなというような気になっています。

一つお尋ねをしたいと思うんですが、全国的に見ると、例えば東北地方の秋田県、岩手県、青森県、あるいは北陸の富山、石川、福井といった県が全国では上のほうの成績をとっていると。やっぱり特徴的な何かがあるのかなということが1点。あるいは、県内では長与町が高いという評判を聞くわけですが、何が佐世保と違っているのかというのを事務局で捉えられておれば教えていただきたいというのが1点目です。それを受けて、またいろいろお尋ねしたいと思います。

【西本教育長】

学校教育課長。

【中原教育次長兼学校教育課長】

確かに学力が高いところが寒いところに集まっていますので、季節的な影響があるのかどうかというのは、ちょっとそこまではわかりませんが、平成19年度に全国学力学習状況調査が始まりましたが、その前からずっと積み重ねた部分があると思います。それぞれ各県の特徴があると思うんですけれども、共通的なこととして事務局として把握しておりますのは、やはり3世代同居の家庭が多いという特徴、それから、学校教育に加えまして、家庭や地域の教育力が高いという点が特徴として上げられるのではないかと思います。

県内では長与町がずっと学力高いんですけれども、やはりこちらの特徴としても家庭における学習の習慣化、それから、その徹底というのがなされているところがあります。私は学校教育の専門ですので、学校教育はもちろん頑張っていかなければいけないと思うんですが、あわせて、地域の教育力とか家庭の教育力とか、その辺も考えていかなければいけないのかなと思っております。

参考までに、学校教育課に専任指導員を配置していただいていますけれども、そのモデルとした秋田県では、早くから学力向上のための指導教員の配置がされておりまして、そういったことから考えますと、秋田県においては地域住民、県民の意識の高さがあるのではないかなと思っております。

以上でございます。

【久田委員】

地域の教育力が高いところは学力が高いという、必ずしも全部が全部ということではないんでしょうが、そうすると、地域の教育力が高いところは子どもたちの教育への関心も高いでしょうし、学校教育に対しての関心も、あるいは積極的にかかわってくださっている。

じゃあ佐世保はどうかと考えたときに、佐世保も登下校を見守ってくださったり、あるいは学校に入り込んで丸つけをしてくださっていたり、あるいは読み聞かせ図書ボランティアの方もいらっしゃるし、放課後子ども教室でお世話をいただいている、あるいは学校支援会議や地域の皆さん方もいらっしゃるって、積極的にかかわってくださっている現状があるわけですね。そうすると、佐世保もまあ頑張っているほうかなという認識があるんですが。

私も学校出身者ですので、学校はどうかと考えたときに、学校はどうも支援をしていただいただけにとどまっている気がしてならないんですよ。もっと学校が地域に対して何ができるかということを考えてほしいなと。もちろん考えていただいているんでしょうけれども、やっぱり地域とともに育っていくというんですかね、地域とともにある学校づくりをやっぱり目指さないと、今、地域にお願いすることばかりが目についているような気がしているので、そこらあたりをこれからは少し意識して、目のつけどころとしていただきたいなと。

もう一点気になるのは、今、小学校と中学校の学力を数値化して、全国と比べたり長

崎県と比べたりしていただいたんですが、小学校もいいとは言えないんだけど、中学校において3ないし6ポイントも落ちているんですね。何かそのところが気になって。県立中や進学校に小学校を卒業すると進む子どもたちがいるので、ひょっとしたらその影響があるとやろうかと思ったりもします。

また、小学校と中学校の連携の強化が叫ばれていて、その接点の課題というのがあるのかもしれませんが、幸い金比良小学校と光海中学校、広田小学校と広田中学校、あるいは小佐々小、楠栖小、小佐々中というように、本年度から小中一貫校がスタートしています。現時点では何ともおっしゃりにくいと思いますが、どういう点が評価、評価があるのか。県立中に進む子どもたちのことと小中一貫校のことについてお尋ねします。

【西本教育長】

学校教育課長。

【中原教育次長兼学校教育課長】

県立中や進学校に進む生徒もおりますけれども、数としたら全体の中の一部でございまして、県立中に進んだ子どもたちがもし佐世保市立中学校にいればということで推定して入れ込んだこともあるんですけれども、影響としてはあまり大きくありませんでした。学校訪問に行ったときに、上位部分が県立中に行ったので、数学の授業でグループで学び合いさせているんだけど、リーダーをとられてなかなかうまくいかないという話がありました。個別にそういった話はあるかと思うんですけれども、全体的にならしてみると、あまり大きな影響はないのかなと思っております。

学校訪問をされていて感じますが、やはり学力の状況でありますとか、授業の状況について、小学校と中学校の連携がまだまだ不足しているのではないかなと感じます。学力が高い自治体は小中連携に力を入れております。やはり本市におきましても小学校と中学校の垣根をもっととって、お互いの学力にまず関心を持つ。小学校の先生は中学校に行って、「この子たち、どがん学力の変化があるとやろうか」と関心を持って、中学校の先生は逆に、「今度小学校から上がってくる子どもたちの学力はどうやろうか」とまず関心を高く持つことと、それから、小学校と中学校の指導の連続性をしっかり強めていくのが大事かと思います。そういった意味では、まだまだ小中連携が不足していると思いますので、こちらについて、さらに小中連携を進めてまいりたいと思っております。

もう一つのお尋ねの、小中一貫校が金比良小学校、光海中学校をはじめ、あるというところの特徴でございまして、まず、小学校と中学校が一貫してカリキュラムを作成されております。例えば算数・数学であれば、算数の1年生から6年生まで、それから中学校の数学の1年生から3年生までとか、そういったものを縦に見て、教科ごとにしっかり見て、一貫したカリキュラムをまずつくっていくところがほんとうにすばらしいことだなと思います。

それから、特に中学校の先生が小学校の授業にたくさん携わっていただいております。

そういう専門的な指導を小学生が受けられるというのがいいなと思って、そういう意味で、学力向上の面からの小中一貫、小中連携が深まっております。

今年度からスタートした一貫教育でございますけれども、今後、教育委員会としてもしっかり支援しながら、この一貫教育でやってらっしゃる小中連携というのが、一貫教育しなくても小中連携をやっていく上での参考になるのかなと思いますので、そういった部分で一貫校の取り組みを市内にも広げていきたいと思っております。

以上でございます。

【西本教育長】

よろしゅうございますか。

【久田委員】

はい。

【西本教育長】

深町委員。

【深町委員】

説明にも出てきていますけれども、小佐々小、楠栖小、小佐々中でコミュニティ・スクールの実践教育が行われていて、この取り組みには小佐々地区の自治協議会のかかわりがとても大きかったと聞いております。そして、ここでもさっき教育長の話にもありましたけれども、西地区の自治協議会と教育会で地域未来塾が開催されておりまして、私もその様子を見させていただきましたし、先日はテレビ佐世保でも取り上げられていて、その様子が映っておりました。

やっぱりそれを見たほかの地区の保護者に見れば、ああ、光海地区いいよね。自分のところにもこんなのがあったらいいのということをおられた保護者も少なからずといらっしゃると思うんですよね。この地域未来塾がここだけじゃなくて、今度どういう広がりをしていくのか、どういうふうなことを考えてらっしゃるのかということも含めてちょっとお聞かせいただけたらと思います。

【西本教育長】

社会教育課長。

【小田副理事兼社会教育課長】

地域未来塾、こちらの西地区公民館、まさにこの場所でさせていただいております。これには、地区自治協議会の皆さん、そして佐世保市の教育を考える教育会の皆様のご支援、ご尽力があって初めて実現いたしました。

我々社会教育の分野、これが学校教育とどうやって連携して、いわゆる子どもたちの

育みに寄与できるのかというのを考えてきた中で、平成１９年から放課後子ども教室というものをやりまして、ここの地区でもその放課後子ども教室がずっとあっているわけですね。ここでは学力というよりも、いわゆる豊かな体験であるとか、子どもたちとの連帯感であるとか、地域の方々の中で育てられているという自己肯定感というものを育むというのに重きがあったわけですが、今度試行的にやっております地域未来塾は、まさに学力にまで踏み込んでやっていきたいというものがございました。

それはやはり学校教育だけじゃなくて、家庭教育、家庭学習の時間、放課後の中での学びの時間というものの大切さ、そこに何とか学習の習慣づけとして、それによって達成する喜びとか、そういうものが与えられればということで始めた状況がございます。

地域未来塾、まだ１２月から始めて間もないわけですが、これは子どもたちがわからないところがあったら先生に聞ける。そして、個別の面談というものも中学生に対しては行いました。その中で、自分はこういうことをちょっと悩んでいるんだよねというふうなことも含めて、子どもたちのケア、そして学習に対してのケアということができました。間違いなくこれはきっと、放課後の学びの中に寄与できる取り組みであろうと期待しているところでございます。

当然、学びの定着化ということが期待できるわけですが、その中でやっぱり地域の方々の方々の力というものが非常に大なるものがございます。そして、教育会の教育者としてのＯＢの方々の尽力ということも大であるわけですが、そこにエネルギーがどれだけ提供できるのかということが一つ課題だと思っております。

それは、冒頭の教育長のご挨拶の中であつたかと思いますが、そういう部分、それがどれだけここ西地区の中でテスト的にやって、全市的に広げられるのかというところの課題ではあるんですけれども、この部分というのをどのようにすればバランスというんでしょうか、子どもたちの学びの意欲に対してどれだけのことが提供できるのかという、このバランスのところをこれから課題に持って、広げる方法は果たしたらいいのかなということを考えていけたらなと思っております。

【西本教育長】

内海委員。

【内海委員】

私は２点なんでけれども、１３ページの３の学力向上に関する主な方策の（２）教職員の資質・能力の向上について意見を述べたいと思います。今、佐世保市の小学校、中学校で、教職員の方って全部合わせたら何名いらっしゃいますか。

【中原教育次長兼学校教育課】

約１，５００名です。

【内海委員】

1,500名ですね。そうすると、価値観の共有というか、1,500名いらっしゃる先生方が学力向上、当然その必要性はもう認識されていると思うんですよね。じゃあ、ほんとうに1,500名の方がそのことにほんとうに「よし、やるぞ」という共有がまずどこまでできているんだろうかな。

一つは、各学校のいろいろな分析をされていますが、しかし、先生方は2年か3年、場合によっては4年でかわっていかれる。だから、そういうところでの先生方の意識を高めるための何か具体的な行動をされているんだろうかということがまず一つ。

それと、もう一つは、私自身の体験で、大学受験のときに一番苦労したのは、実は国語力でした。幼稚園、小中を含めて、本を読むという習慣を私が身につけてなくて、どれほどまで後でその苦労をしたかという体験を考えると、基礎的な学力のほんとうの根っこの基礎の部分って私は国語力じゃないかなと思うんですね。

そうすると、今度は図書、本を読むという習慣で本を読む楽しさとか、その結果、いろいろな勉強をすることに広がっていくということ、小さいときに習慣化させるために何かプロジェクトチームを組んでやっていくとか、何かその基礎が上がることで学力が向上していくような。

私自身、自分は学力が全くだめでした。その後、大学に入って本を読み始めたんですね。まあ、本を読むスピードが遅いこと。今も遅いんですよ。だから、あのときに身につけていたらなと思ったけれども、しかし振り返ると、母が「本を読みなさい」と準備していたんです。「いや、読まない」と漫画ばかり読んでいた。だから、結局自己責任ですよ、今振り返ると。しかしそこで、何か読みなさいじゃなくて、本を読むことの楽しさというのを小学校1年生、2年生、3年生、その花が中学校ぐらいにぱっと。学校訪問に行くと、小学校までたくさん本を読んでいるのに、中学校に行くと本をあまり読んでないという数字を見るんですね。だから、そこも時間がかかるかもしれないけれども、何か取り組まれたらどうかなというのをいつも感じていたものですから。

以上でございます。

【西本教育長】

学校教育課長。

【中原教育次長兼学校教育課長】

1点目の約1,500名は、事務職員とかを全部含めて約1,500名なんですけれども、ほんとうに学力向上に向けて意識を統一してぱっとやりたいなと思っております。そういうこともありまして、学力向上専任指導員を全ての学校に派遣しまして、前期は専任指導員みずから先生たち相手に模擬授業をして、こんなパターンはいいパターン、こんなパターンは悪いパターンというようなところで両方示して、そういうことを実施しました。後期は各学校で代表の先生が授業をなさいます。その授業をもとに全職員で研究協議をするんですけれども、そのときの指導助言者という形で入りまして、そこで本市において土台というのを五つつくっているんですけれども、そのことをしっかりと

定着をさせる。そして、同じ方向を向かせるような、そういう取り組みをしているところでございます。

二つ目の、読書についてのプロジェクトチームでもつくってという話で、子どもたちにとっては、いかにいい読書環境をつくってあげるのかというのが大事だと思いますので、学校司書の方が特に中心となって、いい環境をつくっていただいています。図書ボランティアの方も一緒になってですね。そうした中で、子どもたちが読書に親しむような環境をつくっていきたいと思いますし、市立図書館という専門の部署がありますので、そういったところと連携をしながらプロジェクトをうまくつくって、子どものうちから早く本に親しませると。図書館、それから社会教育課のほうでも読書活動をやっておられますので、そういうふうな部署がプロジェクトチームのようなものをつくって連携しながら読書活動の推進を今後やっていきたいなと、今のお話を聞きながら思ったところでございます。

以上です。

【西本教育長】

それぞれ話が出ました。

特に私からは、昨日、いみじくも英語研修会が金比良、特に光海中学校の2年生を対象にしてこの場所でありました。この講堂の中に子どもたちが来て、学校でやっている授業を再現しているんですが、オール英語で授業があって、一々反応がいいんですね。そして単語で答えるんじゃなくて、文章で答える生徒も多かったんです。見学に来られたほかの学校の先生たちが、すごいと。これはなかなかうちではできないと。やはり、なぜかということを言われている中で、小学校からそういうふうな癖をつけていると。そういう授業を一貫してやっているの、つながりがあって、中学校に来たから全然違うことをやっているのではないですよみたいな、そういった話があったので、これが小中一貫校の成果かなという感じを持ったところです。

ここは研究校でもございましたので、英語に特化してやられているということもありましたが、そういう意味で小中一貫校はやっぱり得るものも多いなという気もしたんですね。

読書のほうも、学校司書を20名に増やして、学校訪問のとき、増えましたと。貸し出し数が急に伸びますよね。そういう意味では、単に「読みなさい」と言ってもだめで、やっぱり本の楽しさと、読んだら楽しかもんねというのを味わうと、自分から借りに来るのが増えるし、その導きを学校司書が身近なところでやっていただいているのかなという気がいたしました。12月の議会でも学校司書の増員について請願が出て、満場一致で採択されているんですね。今年の平成30年度の予算にも上げようかと思ったんですが、もう少し処遇に関して解決しなければならない課題もありましたので、平成30年度はその準備をさせていただいて、できれば平成31年度、学校司書の増員ができればいいなということで、総合教育会議の中でも話題にすることになるんじゃないかなと思いました。

それから、家庭学習の習慣、やっぱり統計を見ますと、13ページでも予習復習は小学校であまりしていないと。中学校に至っては、学校の宿題をしていないというのが全国平均マイナス0.8ポイントということで、平均まで行っていないというのがやっぱり家庭学習の習慣がいま一つということがあるので、地域未来塾で、全員は来ませんでしたがけれども「よかよ、行ってみらんね」ということで伝わって行って、全市につながっていけばいいかなという気がいたします。

塾に行く子はいいですけれども、今、貧困家庭とか、行けない子もいるわけですね。家庭に帰っても、親も兄弟も誰もおらんというところもあったりすれば、意識が少し低い楽なほうに行きますと、テレビを見たり、ゲームしたりというふうなことになる。やっぱり習慣づけが大事ななと思いました。

久田委員。

【久田委員】

いろいろな意見が出て、いわゆる地域の教育力とか家庭の教育力が高いところが学力が高いとはいえ、学校でそれだけ学習しておれば学力も身につくわけですね。

そう考えるものですから、ついつい私たちは校長のリーダーシップであるとか、教職員の指導力ということばかりに焦点を当てて物事を考えがちで、それは当然のことだと思うんですが、一方において、教育委員会の指導力はどうかというのをずっと考えてみると、今やっと専任指導員であるとか、あるいは学校司書のことであるとか、先ほどの内海委員がおっしゃったプロジェクトチームをつくったらどうかとかという、そこら付近に目が向き出して、佐世保市の場合にはいい方向になっているのかなと感じることが多いんですね。

ですから、私どもの指導力、あるいは手立てというのともあわせて考えないと、ついつい学校の校長のリーダーシップだ、教職員の指導力ばかりで、学校はどういう受けとめをして、こんなことをしてくれるからやりやすいとか。例えば、教育長と早岐小に専任指導員の授業を見に行ったとき、いいと思いましたし、日野中学校に数学の授業を見に行ったときも、いいと思いましたから、徐々に花が開いて実を結ぶ方向になっていくときに、教育委員会の指導力の視点というのを常に置いておかないと学校が疲れると。一体となってやるんだよという意識をぜひこれからも続けてほしいなと。

【西本教育長】

ほかにございますか。

ほかの自治体の教育長から、「学力って言わんでよかっちゃんかですか」と言われたことがあります。私も学校現場の出身じゃないので、ついつい数字のほうに目が移って、極端に言うと、一、二点の差ぐらいで上下するんですね。

ほんとうに学力だけが子どもたちの全てではないというのは、例えば12ページの一番下の「学校に行くのは楽しいか」という設問に対して、中学校では全国平均より3.3ポイントも高いということを見ると、佐世保の子どもたちというのは自己肯定感、ある

いは学校の規律の関係とか、これが伸びていけばもうすばらしいと。それにプラス、勉強も楽しかということが加われば、すごい力を将来的に発揮できる子どもたちになるんじゃないかなと思っております。

特に、命を見つめる、そういった取り組みというのは非常に先進的でございますから、あともう一つ、全国平均以上に学力を伸ばせば、佐世保市が全国のモデルケースになるんじゃないかなと。

今、いみじくも久田委員がおっしゃったように、口だけで頑張れ頑張れと言っても、結局何か取り組まないと、新しいことをしないと、刺激にもならないと。専任指導員の授業で、最初に悪い例を見たときに、「悪い例もそがん悪うなかね。これ、普通の授業たいね」と。ところがいい例を見たときに、「ああ、違う。こがん違うものなのか」というのは、やっぱりいい例を見ないとわからなかったんですね。だから、ひょっとすると、悪い例が当たり前でやっている先生もいらっしゃったら、いい例を見て、ああ、ここがこう違うというのを目の当たりにすると、初めて認識が新たになるということもあります。専任指導員にはほんとうにご苦労をかけていますけれども、一朝一夕にはなかなか難しいかもしれませんが、じわじわと浸透していくんじゃないかなと思っています。

そういう意味では、教育委員も含め、私も含めて、サポートをお願いしたいなと思っておりますので。

【内海委員】

1点だけいいですか。子どもたちに対して、何で勉強せないかんのかなということでは、私、この学力向上という言葉を見ているときに、その前に人間としての基礎学力、基礎的なこと。それは、今、自分がこの歳になって振り返ってみたときに、やっぱりいろいろな反発もあったけれども、しかし、ほんとうに基礎学力というのは小学校、中学校、ここにあるんじゃないかなと。だから、専門的なことは当然高校から大学に入って。ここの重要性を子どもたちに認識させるということの大事さを先ほどの教育長の話聞きながら感じました。

もう一点は、私仕事で結構全国を飛び回るので、今年は北陸に旅行業の出張をつくって、できれば佐世保市の推薦をいただいて現場を、特に秋田あたりをぜひ見てみようかなと。

先ほどおっしゃったように、見たら、また何か新たな発見が出るんじゃないかなと思っておりますので。

【西本教育長】

秋田は行かれた先生いらっしゃるんですか。

【中原教育次長兼学校教育課長】

秋田は鳩山主幹が昨年度ですかね、行きました。そこで専任指導員のあり方とか、地域の教育力とか家庭の教育力とか、そういうものの違いを感じとってきたんですけど

も、授業そのものというんですかね、教師の力とか授業そのものは、そう大きな開きはないというふうに感じているんですね。

ですので、先ほどからありますように、やっぱり地域の教育力とか、かなり違うかなと思うのは、家に帰って勉強するのが当たり前というのが、かなり昔から根づいているんですね。その違いは何とか追いつかないといけないと思うんですけれども。

私もその出張の報告を聞きながら、歴史的な部分というんですかね、家庭、地域の歴史的な部分というものの開きがあるのかなと。それをつくっていくのは結構時間がかかりますので、もう今私ができるところ、とりあえずは学校教育とか教育センターの研修とか、そこら辺を中心にやり始めたところでございます。

【西本教育長】

専任指導員にお聞きしてよかですかね。手応えというか、まだ1年たってないと思いますが、振り返ってどうでしたか。

【伊藤学校教育課副主幹】

専任指導員の伊藤です。

実際のところ、先生方のアンケートを今からとらせていただこうと思いますけれども、私たちが見た主観で話をさせていただくと、フレームづくりということで、授業のスタイルを45分あるいは50分の中できちんと終わらせて評価等までということでこの1年臨んできた点では、成果となって出てきているのではないかなと思います。生徒たちの表情もわりとわかったというか、何ができたかということがきちんとわかる授業が見えてきたというのが現状ではないかなと思います。

【西本教育長】

「わかった」というのは大事ですよ。

それから気になったのが、調査のときに出てくる無回答ですね。これが結構佐世保市は多いと。どの学校でも無回答があるんですね。要するに、最後まで解かんというのがある。その辺は学校教育課ではどういうふうに分析をされているんですか。

【中原教育次長兼学校教育課長】

結果的な数字としては、小学校は無回答というのがほぼ全国水準で、中学校がやっぱり無回答率が上がります。そもそもわからないから解いてないんだろと思うんですけれども、特に東北や福井は学力も高いし、体力も高いです。福井県の特徴としては、端的に言えば、何くそと思って解く。わからない問題でも挑戦していくと。挑戦をしているうちに道が開けてくるというふうな、何かそういう子どもにも根づいている県民性というんですかね、それがあまして、福井のたくましい子どもと佐世保のちょっとやわな子どもを比べるとあれかなと思って、そういう精神的なたくましさ、タフさというんですかね、その辺も身につけてやりたいし、第一、問題を見て解けそうと思えば食いつ

くんでしょうけれども、最初からもう無理と諦めてしまっているのが無回答率の高さにつながっているのかなと思います。ですので、小学校からしっかりと「わかった」という体験を積み重ねて上げていかなければいけないなと感じているところでございます。

【西本教育長】

それでは、報告事項に移りたいと思います。

平成２９年１２月定例会一般質問答弁についてということで、よろしくお願いいたします。

【池田教育次長】

１２月議会は、ごらんのとおり７議員から１０件の質問がありました。お一人二つかいというのがありましたので、一つの質問が複数の課にまたがるところもありまして、各課への質問件数は総務課４件、学校教育課３件、社会教育課３件、学校保健課１件、青少年教育センター１件ということで、従来学校教育課に偏ったものが、かなりほかの課にも質問が行くようになったのかなと思っております。

事前に答弁資料は配付させていただいておりましたので個別の説明は省略いたしますが、最近の傾向としまして、先ほど言いましたように、各課にばらつきが出てきております。気になるのは、夏場における気温上昇から、学校における空調設備の設置というのがここ複数回質問があっています。また、合併等に伴い、さまざまな通学環境を抱えたところによる安全な通学手段の確保から、遠距離通学制度や通学路についての質問も出ております。また、世界遺産、日本遺産、以前見られなかった質問が散見されるようになってきている状況でございます。

説明は以上でございます。

【西本教育長】

ただいまの報告について、何かご質問はございますでしょうか。

エアコンというか空調ですね。ここで結論は出ませんが、それぞれの委員はどんなお考えですか。

深町委員。

【深町委員】

維持管理とかの費用を考えたら、とてもじゃないけどそこまではできないかなというのを感じますよね。高校もやっと入りましたけれども、高校はあくまでもＰＴＡの負担で。だから、生徒がお金を払ってるんですよね。そういう形での導入でしたので、やっぱり市として導入というのは、予算面からはなかなか厳しいかな。

【久田委員】

以前からすると、ひょっとしたら温暖化の影響で暑くなっているのかな。そうすると、

指導する側も子どもたちも、以前はそれぞれの家庭にエアコンというものもそんなになかったし、今はもうどこに行こうと、家でも各部屋にエアコンがある時代で、子どもがそれになれてしまっている。職員もそれになれてしまっていて、学校とのギャップがものすごくあるのかなと。

そうすると、県下同じような状況なのかどうか。県下各都市の状況は、冷房はどうなんですか。

【吉田総務課長】

冷暖房１００％完備は島原市だけです。島原市は雲仙普賢岳の関係で防じん対策として。お隣の南島原市については、エアコンを１００％にするということで市長も方針を決められました。

先ほど維持管理の話が出ましたが、確かに初期のインニシャルコスト自体も何十億円という、かなりのインニシャルコストがかかるということと、電気代等は結構莫大なお金がかかることになりますので、現段階では、事務サイドといたしましては、長寿命化とか建てかえのときの整備指針、どこまで整備するのかという中で、エアコンの設置によって何か削減できるものがあるのかというようなプラスマイナスを見ながら、今後整備していく基準の中に入れていくかという検討を始めなければいけないと思っているところでございます。

以上です。

【深町委員】

数年前、扇風機がついただけでもよかったなという気持ちになったんですけれども、やっぱり人間なればその上その上になるんですね。扇風機がついただけでもほんとうによかったなと思って、ありがたかったんですけれども。

【西本教育長】

平成２６年やったですかね。

【吉田総務課長】

そうですね。

【久田委員】

そして、その扇風機を効果的に使ってないんですね。何でこんなに蒸し蒸しするときに扇風機が回ってないんだろうと。扇風機とかエアコンとかは何月何日以降に使用するようという通知はだしているんでしょうか。

【吉田総務課長】

エアコンについては、毎年６月１日からということで通知を出させていただいていま

すけれども、扇風機に関しては特にそういった通知は出してなかったと思います。

ご質問いただいた点につきましては、学校のほうにもお知らせするような形で工夫をしたいと思います。

以上です。

【西本教育長】

義務教育ですから、ばらつきがあったら、つけたところ、つけないところがあったらいけない。例えば中学校３年生の受験を控えている学年だけはつけるとか、何かそういう形になるかなという気はするんですよね。

【吉田総務課長】

今、校長室とか職員室とか保健室に加えて、新しく校舎を建てかえたりしたところは図書室に空調をつけていっていますが、従前のところはつけてないところもありますので、中学校３年生でありますとか、図書室でありますとか、そういったところについては近々の検討が要るのかなという気がしています。

【内海委員】

図書室に人が集まってきますね。そうすると、本を読む確率が高くなるんじゃないかな。

【西本教育長】

そうですね、通える場としてね。我々もちょっと検討課題かなと思います。
あとはございませんでしょうか。

【全委員】

ありません。

【西本教育長】

それでは、報告事項の２、平成３０年成人式典終了報告です。
社会教育課長。

【小田副理事兼社会教育課長】

それでは報告事項１２ページをお開きください。成人式典の開催についての報告でございます。

１月７日に開催いたしました、早朝から小柳ロードレースご出席の後、午後こちらのほうにご出席賜りまして、ありがとうございました。この表の一番右側に本年の成人式典の結果を掲上いたしております。対象２，４７５名に対しまして、会場内には１，７５０名が入場したということでの記者発表も行い、このように記録をさせていただいた

ところでございます。

大きな事故もなく、平静に会を終了することができました。ありがとうございました。
以上で報告を終わります。

【西本教育長】

成人式典の件について。
内海委員。

【内海委員】

ちょっと質問ですけれども、実行委員会のメンバーおられますよね。その方たちの検討会が大体5回開かれて、そのときの会議の準備とか進め方というのは、教育委員会のほうでリードしながらまとめていくというやり方なんですか。

【西本教育長】

社会教育課長。

【小田副理事兼社会教育課長】

成人式の検討委員会、おっしゃるように5回開催をするわけですが、必ず私も社会教育課の職員が同席しています。記録であるとか、それから企画に対してのアドバイスであるとか、そういうふうなことを含めながら、予算と相談しながらというところがやはり都合がありますので、そういうことをしながら、現実的に実際にできることはどんなことだろうということを練り上げていくということで毎年やっております。

【内海委員】

この式典は大体同じ形ですよ。それはもう基本的に前のやつを参考にしながらやっていく。あと役割だけが変わっていくということですかね。

【西本教育長】

社会教育課長。

【小田副理事兼社会教育課長】

私どものほうでは、いわゆる式典をぶっ壊してもいいですよというふうなことは、まずは提案をいたします。昨年まではこうでしたということで、参考例として提示します。ただ、今申し上げたように、いわゆるこの形にこだわる必要はないというところから進めますけれども、やはり厳粛な式典ということで、ここにおさまっていくというのが現状でございます。

【久田委員】

例えば2,475名と書いてある佐世保市在住の成人の数、成人を迎えられるというのは年度で案内するのか。

もう一つ、市民憲章をみんなで会場と一体となって言うときに、きっちり前もって会場全体にお知らせして、じゃあ始めますという感じのほうがスマートかなと、そこは感じましたね。

【小田副理事兼社会教育課長】

二つお話をいただきました。

一つ目の対象者の考え方なんですけれども、今年につきましては平成9年4月2日から平成10年の4月1日までにお生まれになった方で、12月1日現在で佐世保市に住民票を置かれる方ということで行っておりまして、いわゆる学年でご案内を出させていただきました。おっしゃるように、いわゆる学年ですので、19歳の方も参加というところは出てくるわけでございます。

それから、市民憲章の読み上げにつきましては、私も全く同じ意識がありましたので、次年度に生かしてまいりたいと考えております。ありがとうございます。

【深町委員】

私の感覚では、年々付き添い保護者が増えてきているように感じているんですよね。それで、出入り口にたむろしていて、私もそこをすり抜けて中に入るの、案内があっているのかどうかはちょっと確認できてないんですけれども、付き添い保護者の方は何階席へどうぞとかいう案内はされているんですか。

【西本教育長】

社会教育課長。

【小田副理事兼社会教育課長】

事前の案内状には記述がないのですが、当日ホワイエで、お見えになったときには、保護者等の方につきましては3階席、2階席というご案内を差し上げております。1階席は新成人最優先ということでご案内いたしております。

【深町委員】

もう年々保護者の同窓会も一緒にあるような、久しぶりねと親同士がですね、それがずっと増えてきているように感じるの、もう少し大きく、「付き添い保護者の方は何階席へどうぞ」というのをきちんとされたら、下にたむろしている新成人たちも少しは中に入らないのかなという気にもなったり。写真を撮るようなブースなんかも設置するなど工夫はされていると思うんですけれども、何とかあそこの混雑がもう少し緩和できたらなというふうに感じました。

以上です。

【西本教育長】

内海先生、何かありますか。

【内海委員】

参考までに、これって予算どのくらいで運営されていますか。

【西本教育長】

社会教育課長。

【小田副理事兼社会教育課長】

おおむね１００万円程度でございますが、そのほとんどが会場使用料でございます。
あと、案内状の発送費用でございます。

【内海委員】

ということは、アトラクションの方たちの予算というのはほんのわずかということですね。

【小田副理事兼社会教育課長】

１団体、ほんとうに２万円とか、そういう金額でございます。

【西本教育長】

それから、参加者の感想とかは何か、アンケートとかとってらっしゃったんですかね。
社会教育課長。

【小田副理事兼社会教育課長】

アンケート結果を本日まだ添付をいたしておりません、集計中でございますけれども、
おおむね２００名程度からはアンケートがとれております。会場がどこがいいのかとか、
時期がどこがいいのかとか、それから、現在、いわゆる記念品を差し上げていないわけ
ですけれども、その記念品が欲しいのか欲しくないのか、それからアトラクションとい
うか、どういう式典がいいのか、そういうアンケートはとっておりますので、その結果
報告についてはまた別途差し上げたいと思います。

【西本教育長】

それから、来賓の紹介は一人ずつ全部あったんですが、主催者側の紹介がなかったと
おっしゃる方がいました。市長はみんな知っとるばってんが、副市長以下教育委員も来
ていただいている、その人たちの紹介もしないといけないんじゃないかと。

【深町委員】

それは必要ないと思う。私は反対に、検討委員の方々を、一人一人名前を呼んであげなくてよかったのかなというのは感じました。9名の方々ですかね。あそこに立って、一人一人できれば長崎大学、短大の誰々さんですとか、名前だけでもおっしゃっていただけたらあれかなというのは思いました。ちょっとそれは感じました。

【西本教育長】

社会教育課長。

【小田副理事兼社会教育課長】

ご意見をいただきましたことについて検討していきたいとは思いますが。今ご提案いただいたような方向で検討していければと思います。

【西本教育長】

それと大きな問題が、民法が18歳を成人とするということで改正の準備が進んでいるんですよ。そうすると、成人式を18歳とするものなのかどうかということが一つと、もう一つは、そのちょうど端境期に当たる年に、今年20歳になる、19歳になる、18歳になる、この三つの世代をどうさばくかなというのがおそらく近々問題になってくるんじゃないかなという気がします。18歳で成人式をすると酒飲めないのも、その分はおとなしくはなるんですけども、ちょうどセンター試験が間近に迫っているときに成人式を悠長にやってられるかと。もうウィルスの飛び交いよる中に行けるかとか、いろいろ問題があると思うんですが、全国的にはそれぞれの自治体で考えてくださいというふうな動きの中で、おそらくどうするかというのを検討しないといけない時期が近々来るんじゃないかと思っています。

社会教育課長は何かその辺考えていますか。

【小田副理事兼社会教育課長】

実際上の対応というふうなところまで考えは及んでいないわけですが、おっしゃるような、この動きというのについて、社会教育課でもこれはちょっと協議していかないといけないねというふうなことで話題にはいたしている状況であります。

【西本教育長】

おそらく来年か再来年には。

【久田委員】

今国会に何か民法の改正が提出されているということですね。

【西本教育長】

一番最初が一番大変だから。

【小田副理事兼社会教育課長】

そうです。対象年齢が１８歳の子となったときに、結局、その年の二十歳の人たちというのもお祝いは受けてない状況があります。１９歳の人も受けてないという状況があるので、この３年間というのをどう捉まえるかというところ、これが一番難しいかなと。

１８歳の子が受験シーズンというのもおっしゃるとおりでございます、今、全然解決策というのが見出せてないです。

【深町委員】

あと開催日でいいですか。長崎市とかは成人の日にされているようですけれども、佐世保市はいつも連休の中日にされています。私が聞く意見では、佐世保市はいいと。中日なので、住民票を置いていて他県に出ている子供たちでも帰ってきて、翌日が休みなのでその次の日に帰ればいから、佐世保市のこの開催日はとてもありがたいというのは何人も聞きます。今年なんか特に、翌日は雨だったので、佐世保市はセーフでよかったなというのは思いました。

【内海委員】

長崎はたしか雨で大変だったと言っていました。

【西本教育長】

私も中日がいいと思います。

【深町委員】

だからすごくそこは配慮されて、いい設定だなと私も思います。そういう意見も聞きましたのでお伝えしておきます。

【内海委員】

タイトルが「成人式典」を「二十歳の式典」としたら。すると、そのまま二十歳で。１８歳、高校生を成人として認めるのは、法律的にはいいかもしれないけれども、やっぱり二十歳の節目というのは。そうすればそのままね。

【西本教育長】

そういう考えもできますよね。何も法律上の１８歳にとらわれんでいい。

【西本教育長】

それでは次に参りたいと思います。３番目です。第６８回小柳賞佐世保シティロードレース大会実績報告、お願いいたします。

スポーツ振興課長。

【鶴田スポーツ振興課長】

13ページをお開きください。第68回小柳賞佐世保シティロードレース大会の実績報告についてでございます。

第68回大会は1月7日の日曜日、総合グラウンド陸上競技場及びその周辺で開催いたしました。天気が心配されましたが、前日の準備や大会当日ともに天気に恵まれて、無事に終了したところです。お忙しい中、開会式、また、スターターとしてご参加いただきましてありがとうございました。

今回は、小学3年生から一般の方まで、全部門で1,940名の参加の申し込みがありました。これは前回大会より20名増となっております。そのうち、当日のロードレース大会には1,725名の方が出走されております。救護室への2名の利用がありましたが、大きな事故、けがなどもなく終了したところです。

次に14ページお願いします。

各種目の申し込み者、出走者、完走者、優勝者記録など、結果報告を載せております。詳細につきましては説明を省略いたしますが、この中で10キロの部門で一人の方が棄権をされております。理由は、スタート直後に腰を痛められたことということなので、大きなけが等にはつながっておりません。

下のほうに感想・反省を記載しております。黒印の二つ目をごらんください。昨年から前日受付を導入しました。今回は400名の方、申し込み者の約2割の方が前日受付をされたことで、大会当日の朝、それまでは結構混雑していたんですけども、駐車場の混雑対策への一定の効果があったものと思います。今後も前日受付を行いたいと考えております。

15ページ以降につきましては、参考資料として大会当日の様子を添付しております。説明は以上でございます。

【西本教育長】

小柳賞ロードレースについて、何かご質問はございますでしょうか。何か反省点、お気づきの点あれば。よろしゅうございますか。

【全委員】

ありません。

【西本教育長】

それでは、次に参りたいと思います。報告事項の4、教育講演会「ダニエル・カール氏」の開催についてということです。

総合教育センター長。

【友永総合教育センター長兼総合教育センター課長】

１７ページをごらんください。教育講演会ということで市民公開講座ということで３館連携、教育センター、少年科学館、清水地区公民館という３館で、センターが開設当時からこの事業を行っておりますけれども、今年度につきましては「ふるさとの絆」というテーマでダニエル・カール先生をお招きするようにしております。時は２月１８日１４時から１５時３０分で、総合教育センターの講堂で、２００名規模で考えておりますけれども、詰めれば２５０ぐらいは入るかなというところでございます。

以上です。

【西本教育長】

これ、昨年はどうでしたか。

【友永総合教育センター長兼総合教育センター課長】

昨年は気象予報士の方でした。木原実さん。

【西本教育長】

これにつきまして何かございますか。

【全委員】

ありません。

【西本教育長】

ご都合をつけられる方はぜひご参加をいただきたいと思います。

【西本教育長】

次です。「サイエンス広場で遊ぼう！」の開催についてということです。

センター長。

【友永総合教育センター長兼総合教育センター課長】

１８ページ、「サイエンス広場で遊ぼう！」ということで、少年科学館の一大イベントとして今年も２月４日を予定しておりましたけれども、知事選挙の関係で、１０日の土曜日に繰り延べております。中身につきましては、高専と工業、それから国際大、長崎大学及び市内の小中学校の先生、それにNUMO——原子力発電環境開発機構ということで、これは地層処分のブースをつくっていただくようにしております。参加者は例年大体６００から７００人ぐらいで、子供たちが１日規模というか、なかなか帰らない状況でずっといて、各ブースを回って楽しんでいただいております。

以上です。

【西本教育長】

NUMOも来るんですか。

【友永総合教育センター長兼総合教育センター課長】

前回やったんですけれども、今年もまたということで。

【西本教育長】

次です。6番目、世知原地区公民館、相浦地区公民館の移転に伴う休館についてということです。

公民館政策課長。

【吉住公民館政策課長】

それでは、19ページ、世知原地区公民館・相浦地区公民館の移転に伴う休館について、ご説明させていただきます。

ご案内のとおり、世知原地区公民館につきましては、現在の世知原支所のほうに複合施設として公民館を移転しまして、平成30年4月1日に開館することにしております。一方、相浦地区公民館につきましても、新たに川下町に建設します複合施設のほうに移転をいたしまして、平成30年5月7日から開館することにしております。

これらの移転作業及び閉鎖工事、それから開館準備のために休館をいたすもので、世知原地区公民館につきましては、平成30年3月22日から3月31日まで。図書室につきましては、少し早い3月13日から3月31日まで休館をするものです。相浦地区公民館につきましては、4月21日から5月6日まで休館をいたします。同図書室につきましては、春休み明けの4月6日から5月6日までといたします。図書室については、本のシステムの登録とか整理のために公民館より若干早目に休館させていただいて、そちらの処理のほうを行うようにしております。

なお、図書室の本の返却につきましては、図書室を休館しましても公民館のほうがあるという時間が少し長いので、そちらのほうで受け付けるようにしております。

これらの市民周知につきましては、相浦地区公民館、世知原地区公民館とも、広報させぼの3月号に掲載して市民にお知らせするほか、それぞれ公民館だよりを発行しておりますので、その中でもお知らせいたします。また、公民館の窓口においても周知することとしております。

以上でございます。

【西本教育長】

今のご報告について、何かご質問等ございませんか。

世知原地区公民館はオープニングセレモニーはいつですか。相浦も。

【吉住公民館政策課長】

世知原地区はオープニングを開所式という形で3月31日を予定しております。相浦地区公民館については、まだちょっと調整を社会教育課とやっておりますけれども、予定としては4月28日を予定しております。そこで準備を進めております。

今の予定では、地元の方をメインにということで、あと関係先と、議員さんも文教厚生委員さんと正副議長さんと地元の議員さんということで考えております。それと教育委員さんをお願いします。

【西本教育長】

ほか、よろしゅうございますか。

【全委員】

ありません。

【西本教育長】

それでは、7番目の佐世保市郷土研究所公開発表会の開催についてということです。
図書館長。

【前川図書館長】

20ページ、報告事項7番ということで、第50回郷土研究所の公開発表会を行います。日時は2月10日土曜日午後2時からです。場所は図書館3階視聴覚室で、入場は無料となっております。テーマといたしましては、発表者が研究客員の廣田先生と、同じく久村先生、2名の方がこういったテーマで発表したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

【西本教育長】

では、次に行きます。8番目、チャレンジ！読み語り初級講座の開催についてということで、図書館長。

【前川図書館長】

21ページです。報告事項の8番ということで、チャレンジ！読み語り初級講座を行います。絵本の読み語りに興味のある方が誰でも参加できるような形でしようと思っております。日時は2月15日木曜日の10時半から12時までということで、図書館3階視聴覚室で、講師は図書館司書2名の方が務めます。

去年まではボランティア育成講座ということで、3日間にわたって続けて受講するという形での申し込み方式でしたが、今回は初級と中級と2段階に分けまして、初級の方は誰でも自由に入って聞いていただける形にして、中級はまた3月に

行いますが、それは申し込み方式ということで、２段階に分けてしたいと思っています。市民の方からなかなか３日間通してというのは難しいというご意見がありましたので、入り口として一つ、それと、もっと突っ込んでいきたい方には中級ということで、今回２段階に分けて開催をするものでございます。

以上です。

【西本教育長】

報告事項８はよろしゅうございますか。

【全委員】

ありません。

【西本教育長】

それでは９です。これも図書館です。一括してご説明をお願いいたします。

【前川図書館長】

図書館のイベントということで四つご紹介させていただきますが、全て英語のイベントでございます。２３ページから実際のポスターをつけておりますが、一つ目が「第５回英語でのおはなし会」ということで、日時が１月２７日土曜日１１時からです。これは２階の児童室のおはなしの部屋で行います。対象は小学生の方。申し込み不要で自由にきていただけるように設定したいと思っております。講師といたしましては、ここに書いてありますように、AFN、アメリカの基地内にある放送局の職員の方が来て、実際に英語で絵本を呼んでいただいたり、コミュニケーションをとっていただくというような形でしていただいて、今度５回目をさせていただくということでございます。

続きまして２４ページですが、「コミュニケーション・イン・イングリッシュ」というものです。日時は２月１日１８時から、これは図書館３階の視聴覚室で行います。定員は２０名とさせていただきます。締め切りは１月２６日までとなっております。協力のところに書いてありますが、これは米海軍佐世保基地内にある教会の方がボランティアで市民の方とフリートークを中心とした内容でしていただくというようなものになっています。

次は２５ページです。「第４回英語でキッズ」ということで、その上に書いてありますが、主催が国際ソロプチミスト佐世保パールさんにさせていただきます。日時が２月１１日日曜日１４時から、会場が３階視聴覚室です。対象は幼稚園年少から小学３年生まで、定員が２０名、申し込みは２月２日までとなっております。講師を務めていただくのは、一番下に書いてありますが、佐世保基地内の幼稚園で先生をされている方がいろいろプログラムを考えながら、遊びながら英語を体験するということで、ゲームをしたり、絵本を読んだりということをしていただいているもので、今回４回目を行いたいと思っています。

最後でございますが、26ページですね。「第4回英語d e タ活 i n 佐世保市立図書館」ということです。テーマとしては、「バレンタイン・トーク」ということで予定しております。日時が2月14日17時30分から、場所が3階視聴覚室で、対象が中高生の15名ということで、締め切りが2月6日ということでさせていただきます。

以上四つを今月末から2月にかけてしますが、対象を見ていただいたらおわかりのとおおり、幼稚園から大人まで、全ての世代がどこかで参加できるような形での取り組みということで行いたいと思います。

以上でございます。

【西本教育長】

以上、図書館からの報告事項ですが、何かご質疑ございますか。よろしゅうございますか。

【全委員】

ありません。

【西本教育長】

それでは、以上で報告事項は全て終わりました。全体を通して何かご質疑等ございますでしょうか。よろしゅうございますか。

【全委員】

ありません。

【小田副理事兼社会教育課長】

一枚物のチラシ、今お手元にある分をご紹介させていただければと思います。英語シャワーの事業の一環の中で、プロジェクトを一つ、S a s e b o E x p o チームというのが、これは佐世保エレメンタリースクールの先生が中心となって動いてあったチームでございますけれども、S a s e b o E x p o ということで、2月3日10時から市民文化ホールで、いわゆる文化祭を行うことが決定し、現在、募集中でございます。

裏面のほうにどういう内容なのかということで、ストーリーテリングであるとか、折り紙であるとか、科学体験であるとか、さまざまな子供たちに体験を、しかも、それを英語でやっていきたいということで考えております。

現在の申し込み状況としましては、いわゆる英語圏のお子さん50名程度、そして日本語圏の子供さん50名程度、合計100名のお申込みをいただいている状況がございます。市内、特に中心部の小学校、中学校にはチラシを配布させていただいております。市内全小・中学校に、いわゆるスクールネットによって案内配信を行って募集をしているところでございます。

以上、ご報告でございます。

その後、次回開催日程を決定の上、定例会を終了した。 ----- 了 -----